

第5回北広島市スポーツ推進審議会

日 時	平成31年1月31日(火) 18:30~20:30
会 場	市役所庁舎3階 3D会議室
出席委員	侘美靖委員(会長)、寺田清隆委員、佐藤鶴代美委員、 河上愛理子委員、工藤祐香子委員
欠席委員	御幸保宏委員、久保田智委員、谷口博之委員、碓井琴音委員、
市出席者	【社会教育課】吉田課長、大西主査、上井主事、小川主事
オブザーバー	【笹川スポーツ財団】熊谷哲、森田容子

1. 開会

○「委員の過半数が出席していることから、審議会が成立していること」を確認した。

○会長あいさつ

2. 議事

① 前回までの振り返りについて

(事務局より各回議論内容について説明)

② (仮称)北広島市スポーツ振興計画(案)のテーマ・施策等について

(事務局より基本目標、具体的施策の方向性等について説明)

- ◆A委員：幼児期からのスポーツ活動として市の実施事業は、何歳からを対象にしているか。
- 事務局：次年度に小学校に入学する子どもを対象に底辺拡大事業としてキッズスポーツ塾を年に5教室×5回(65名)を委託事業として実施した。1歳~3歳児は空白部分であり、市の事業としてカバーするのか、他の媒体でカバーするのも含め検討したい。
- ◆B委員：市内の民間の幼稚園でのすばらしい取り組みをPRできる機会があればよい。
- ◆C委員：例えば、きたひろ.TVで動画を撮影し、いつでも見られるようにしてもよいのではないか。
- 事務局：計画には、「北広島市らしさ」を出したいと考えている。たとえば、既存のメニューに少しアレンジを加えて、「もうちょっと体の柔らかい子をつくる体操教室」のようなものを加えるのはどうか。
- ◆D委員：幼児期から学齢期を捉えれば、ヒップホップダンスは、小さい頃からスポーツを行う上で必要なリズム感を鍛えることができるものと考えている。
- 事務局：平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査によれば、北広島市の児童は、全国トップ10に入るほど身体能力が高いとの結果である。
- ◆B委員：幼少期の森保育やリズム感を鍛える取り組みがより広まればよい。「楽しんで行う、自然に抱かれているから行う」雰囲気のアピールできればなおよいだろう。

第5回北広島市スポーツ推進審議会

- ◆B委員：健康づくりのメニューが少ないように感じるのだが、明記はしないのか。
- 事務局：基本目標（案）に掲げている「スポーツが日常生活に溶け込んだ元気あふれるまちの実現」には、あらゆる市民を包含しているので、当然健康領域についてもカバーしていくことになる。ご指摘のとおり健康領域とスポーツ領域は密接に関わる部分がある。計画に書き込む際は、健康なのか、まちづくりなのか、観光なのか、どこに軸足を置くかによって書き方も変わってくると思われる。

- ◆D委員：学校における体育・スポーツ活動の充実とあるが、学校で教える種目が多様化している中で、学校の中だけで完結させるのは難しいと考えている。市としては、どのようなアプローチを考えているのか？
- 事務局：現在、中学校の授業ではダンス・武道（空手）を体育が取り入れられているが、地域人材を活用することによって地域の教育力を高めたいと考えており、市としては放課後子供教室として英語教室、手話教室、空手教室、ヒップホップ教室を実施している。外部指導者は、現状は大曲中学校のテニスのみとなっている。

- ◆D委員：学習指導要領の中では、「ダンス＝表現」とされている。市の補助金としては、ストリートダンス大会の出場には文化振興助成金、エアロダンス大会の出場にはスポーツ出場費助成金となっているが、一般的にはダンスはスポーツになるのか？
- 事務局：ダンスのとらえ方は難しいが、大きな区切りについて共通認識を持つべきだと思う。表現を伴うものであってもフィギュアスケートや新体操はスポーツとしてとらえられている。

- ◆B委員：スポーツの定義として言えば、eスポーツはスポーツに含まれるのか？「体を動かす」ものをスポーツとするのはよいが、表現の面で、体を動かさないものを一切認めないという表現はしないほうがよいのではないか。
- 事務局：eスポーツやマインドスポーツ（囲碁・将棋など）の垣根があいまいな部分はまだあるのが実情。eスポーツを積極的にスポーツに含めるのはいかがかとは思いますが、全く否定するような表現も避けたいと考えている。

- ◆C委員：スポーツ少年団はいま26団体が加盟しているが、指導者資格を有する者を2名以上配置しなければ加盟団体とはならず、少年団として認められていない団体がある。
- 事務局：いまお話のスポーツ少年団の指導者養成・育成は北海道体育協会が中心となって進めておられるので、市としては指導者が集まって情報交換を行えるような場を設けてもよいのではないか。スポーツの現場の最新情報に加えて、市の地域の情報なども加えられればよいと考える。

- ◆B委員：いまスポーツの領域は、目まぐるしく変化している。私たちの子どもの頃の常識はもちろん、数年前の当たり前が今では通用しないこともある。そういった最新の情報を提供できる・勉強できる場はあったほうがよい。

第5回北広島市スポーツ推進審議会

- ◆B委員：スポーツツーリズムとはなにか？
- 事務局：スポーツイベントと観光（たとえば都市型観光）を結びつけた概念で、マラソン大会の参加者にその都市の魅力にも触れてもらいながら観光滞在時間を増やし、経済効果などの相乗効果を上げていくものと捉えている。
- ◆B委員：計画項目の中にスポーツと医療についても入れるべきではないか？医療と福祉のまちづくりも視野に入れたほうがよいと考える。
- 事務局：大切な視点であると思うので、軸足の置き方も含めて検討したい。

- ◆A委員：温水プールの建設はないのか？
- 事務局：市の計画としても既存の簡易温水プールの維持管理は念頭にあるものの、今後は他の民間施設の状況も鑑みつつ、個別施設計画の中で長寿命化・廃止等についても検討していくこととなる。
- ◆B委員：競技の視点だけではなく、誰がどんな運動をするのかという視点が必要。その意味で、整備だけではなく、マンパワーすなわち支える人材の育成も必要である。

3.その他

○事務局より次回開催日のお知らせ

3月19日（火）18：30～市役所3階3D会議室にて行われる。

4.閉会